

平成30年6月26日  
東部農林振興センター出雲事務所農業普及部

標題 雪害を克服し斐川町ぶどう生産組合が集荷所開所式を開催！！

(ダイジェスト)

今年2月の大雪で大きな被害を受けた斐川町ぶどう生産組合で6月8日に集荷場開所式が開催されました。今年は2月までの低温等の影響で昨年より5日遅い初出荷となりました。開所式では生産者が一丸となって、税別単価1,300円/kgを実現し、産地の復興に繋げていくことが確認されました。

出雲市斐川町では今年2月の大雪によるハウスの倒壊等大きな被害があり、斐川ぶどうの30年産の出荷量は前年の半分程度になると予想されています。このような中、6月8日に斐川町ぶどう生産組合で集荷場開所式が開催されました。

式では、まず生産組合長から「デラウェアの2月の低温による出荷遅れがあったがシャインマスカットの出荷まで生産作業が続き長丁場となるため、健康には十分に留意していただきたい。税抜き1,300円/kgを目標に裂果のない高品質な生産物を作っていこう。」との挨拶がありました。

続いて、5月末までに早期出荷された3名の生産者に対し、生産組合長から記念品が贈呈されました。

今後、斐川ぶどうは6月中下旬にはデラウェアの出荷ピークを迎え、7月下旬頃からは巨峰、シャインマスカットの出荷が始まり、10月末頃まで続きます。

普及部では今年度産ぶどうの安定生産と、復旧ハウスにおける早期成園化に関係機関・団体と一体となって取り組んでいきます。



5月末までに出荷された方への記念品贈呈